

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|---------------------------|------------|
| 事業所番号 | 0571111244 | |
| 法人名 | 社会福祉法人北秋田市社会福祉協議会 | |
| 事業所名 | たかのす社協つづれこ認知症対応型共同生活介護事業所 | |
| 所在地 | 秋田県北秋田市綴子字大堤家後26番地3 | |
| 自己評価作成日 | 平成27年9月24日 | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.akita-longlife.net/evaluation/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会 |
| 所在地 | 秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1 |
| 訪問調査日 | 平成27年10月16日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム1階に法人経営のデイサービス事業所があることで、行事等を通じて利用者同士交流する事ができます。食事の支度はデイサービスの調理職員と連携し、掃除は清掃業者を活用しているため、職員はゆとりをもって入居者と関わりを持つことができます。看護職員を1名配置しているほか、デイサービスにも日中看護師がいるため、入居者の健康状態について相談できます。ホームは二つの自治会の境にあり、運営推進会議では両自治会長と民生委員の方から意見を頂くことができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の集会施設と併設している利点として、地域の方々と交流する機会に恵まれています。自治会報も配付されており、地域の中のホームと感じました。ホームは、2階にあります。移動は、階段や車椅子の方でも大丈夫のようにエレベーターが設置されています。天窓から降り注ぐ陽光の中で、職員を介し、笑顔で会話をしていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|---|--|
| 54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 55 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 64 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 利用者と職員で作った事業所独自の理念があり、ホームの見やすい場所に掲示している。勉強会で理念について振り返る機会を持ち、理念の実現に向け取り組んでいる。 | 「人と人のつながり・馴染みの関係を大切に」等の理念をもとに、本人らしく過ごすことができるよう性格等の把握に努め、穏やかに過ごすことができるよう良好な人間関係作りに努めることを心がけています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の老人クラブの運動会や保育園の夕涼み会、地域の祭典などに出掛けたり、保育園やボランティアの慰問もあり交流を図っている。 | 地域の集会所が併設されていることから、地域の方と触れ合う機会があります。地域の行事案内をいただき、積極的に参加し交流しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している | 法人内の全職員が全戸訪問活動を行い、サービス情報の提供や介護などの相談にも対応出来るようにしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回年間計画に沿って定期的に開催し、行事等の様子を伝え意見を頂いている。今年度は、法人内の他グループホームの推進委員との意見交換を行った。 | 行政・民生委員・自治会長・利用者家族の方の出席のもと、行事や利用者の状況報告等を行い、地域の中の施設として意見や助言を頂き、サービスや職員の質の向上につながるよう話し合いを行っています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市職員の方に運営推進会議に毎回参加して頂いており、ホームの状況を理解して頂いている。生活保護受給者も入居しており日頃から協力して頂けるように取り組んでいる。 | 地域密着型の施設として、市役所からの指摘事項は、運営推進会議で相談し話し合い改善につながるようにしています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内でマニュアルを整備している。外部研修に参加し、職員間で勉強会を行い身体拘束のないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束について、職員が具体的に理解することができるマニュアルを作り、拘束につながらないようケア方法を話し合い、拘束のないケアに努めています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人内でマニュアルを整備している。外部研修に参加し、職員間で勉強会を行い実践している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修に参加し、勉強会を行う予定にしている。制度を活用している利用者もいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書にて説明を行い、納得頂いた上で同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 相談、苦情の窓口を重要事項説明書に記載し、建物内にも掲示している。苦情解決第三者委員による相談日を実施し意見を聞く機会を設けている。ご意見箱も設置している。 | 毎月のおたより「ほのぼの通信」を通し、ホームの行事に参加している様子を伝えていきます。開かれたグループホームを目指し、意見を頂きたいことをお伝えする機会にもしています。毎年1回、利用者アンケートを取り報告しています | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎年個人面談を行い、意見をまとめ改善に努めている。職員が検討が必要と感じた事を記録し、職員会議で意見交換している。 | 安全衛生・運営・環境・苦情解決等の委員と月1回の管理者会議では、代表者に環境面や処遇面等についての提案を行い職員の意見や提案する場となっています。経営会議は、法人で行っています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 取得資格や勤務年数などの条件を満たした嘱託職員等に、正職員への登用の機会を設けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修計画を立て、毎月勉強会を行っている。外部研修にも参加の機会を持ち、復命書にて回覧している。法人内でも研修会を実施している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内のグループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所と連絡調整会議を行い、意見交換している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 担当ケアマネジャーを通じて把握したり、利用前には本人状態や意向を確認し、本人について理解するように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 担当ケアマネジャーを通じて、家族の状況を把握したり、利用前には面談を行い、不安の内容把握に努めたりしている。 | | |
| 17 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者と職員が同じ食卓を囲むなど、可能な限り利用者と一緒に過ごしている雰囲気となるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月、日頃の様子をお便りで家族に伝えていく。面会時も気軽に何でも話して頂けるように努めている。電話での支援も行っている。 | | |
| 19 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 美容院、病院等本人の行きつけの場所へ行ったり、馴染みの関係が途切れないように努めている。 | 理念である「人と人のつながりと馴染みの関係」を大切にするため、入居後も看護師が付き添い同じ病院に受診しています。慣れ親しんだ場へ出かけた時は、嬉しい表情で帰ってきています。 | |
| 20 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を把握し、孤立したりトラブルにならないように、声かけや見守りを行っている。また、座席にも配慮している。 | | |
| 21 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 長期の入院や転居によりホームを退居した場合であっても、必要に応じて関係者に情報提供するなど、利用者や家族の支えとなるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 22 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の関わりの中から利用者の希望や願いを把握し、出来る限り応えられるように努めている。 | 利用者と職員のコミュニケーションを図る機会として、洗濯たamiを皆で行っています。朝・夕の献立作りの時は、希望等を聞き、ともに考えることを暮らしへの参加の1つとして働きかけています。 | |
| 23 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者や家族から話を聴き、生活歴を作成し、楽しみ事などの情報収集に努めている。 | | |
| 24 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者一人ひとりのできる事や出来ない事の把握に努め、その人にあった過ごし方が出来るように支援している。 | | |
| 25 | (10) | ○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向を確認し、担当者会議での意見などを反映し介護計画を作成するように努めている。また、毎月の会議でも利用者の状況を確認している。 | 利用者本人・家族の意見・意向と職員の意見を聞き、計画作成に繋げています。介護計画を全職員が周知した中でケアを行い、モニタリングを行い、状態変化に対応できるよう全職員が確認できるよう工夫しています。 | |
| 26 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子を経過記録に記入し、情報交換用ノートや朝夕の申し送りで情報の共有に努めている。 | | |
| 27 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティア、小学生、保育園児の慰問や、地域の行事に参加し、色々な方と交流できるように努めている。 | | |
| 28 | (11) | ○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 従来からのかかりつけ医と情報交換を密にする事で、小さな事でも相談可能な信頼関係が築かれている。 | 馴染みの医師と看護師に相談できる体制が、できています。訪問歯科を受けています。薬局から届けていただくことで、処方内容等についての相談を行うことができます。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護者と看護師は利用者の状況を口頭や情報交換用のノートで伝え、統一された介護、看護の提供に努めている。看護師とは24時間連絡を取れる体制にある。 | | |
| 30 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院となる総合病院に対し、かかりつけ医の情報が迅速、適切に提供できる個人ファイルを作成している。 | | |
| 31 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時、重度化した場合の対応に係る指針を説明し同意を得ている。利用者家族と信頼関係の構築に心がけ、意思確認を含めた意見交換を行っている。 | 重度化や終末期の方針については、入居時に説明を行い、理解を得る仕組みを作っています。退居後についても、不安がないよう状態変化に応じた介護サービス利用の支援を行っています。 | |
| 32 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応、症例ごとの確認事項について、マニュアルを作成し、職員間で確認している。全職員が救命講習を受講している。 | | |
| 33 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。また、訓練には地域の方々との協力を得る事が出来ている。 | 実践につながる避難訓練内容を考え行っています。自動火災通報装置を使用した避難訓練を行い、反省をもとに次回の訓練を行うようにしています。2階からの避難方法については、模索しています。 | 今後も運営推進会議の中で、ホームの状況をより知っていると考える近隣や消防団の方の参加のもと、実践につながる避難訓練が行えることを期待します。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 34 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者を尊重し、安心出来るような言葉かけに努めている。居室やトイレに入る時も、声をかけるなどプライバシーを守るよう配慮している。 | 利用者と職員とで考えた理念である「ありのままの気持ちで過ごすことができるよう」一人ひとりを尊重することができるよう本人の性格や生活歴を加味したうえでの関わり方の工夫に努めています。 | |
| 35 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の話に耳を傾け、可能な限り希望に沿えるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりのペースに合わせ、好きな場所で自由に過ごせるように支援している。 | | |
| 37 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | できる方には着る服を自分で選んでもらったり、化粧をしている方もいる。 | | |
| 38 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | お茶を入れてもらったり、食事の盛り付けや片づけを利用者と一緒に行うようにしている。献立も食べたい物を聞き参考にしている。 | 朝・夕の献立は、好んで食することができるよう利用者の意見を聞き作っています。一人ひとりの好みや食事ペースを理解し、ゆっくり咀嚼し食するよう声かけを行っています。 | |
| 39 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者の1日の食事摂取量や水分摂取量を記録し、摂取量が少ない場合は好みに合わせた物を提供し補えるようにしている。 | | |
| 40 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 利用者の状態に合わせ、毎食後うがいや入れ歯洗浄、歯磨きを行えるように努めている。希望される方は、訪問歯科を受けている。 | | |
| 41 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄状況を可能な限り把握し、声かけやトイレ誘導に努めている。 | トイレでの排泄を行うことができるよう、排泄チェック表で状態把握を行い、誘導しています。転倒防止を考え、夜間はポータブルトイレ使用等の工夫も行われています。 | |
| 42 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分補給を行い、摂取量を記録している。また、身体を動かす機会を持ち便秘予防に繋がるよう努めている。主治医からの内服で調整している方もいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者の希望や状態に合わせて入浴が行えるように配慮している。健康チェックを行い、楽しんで入浴してもらえるように支援している。 | 入浴は、週3回行われています。 入浴のない日は、足浴を行い保清維持が行われています。 | |
| 44 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 安心して眠れるように穏やかな声かけに努めている。本人の望む休息が出来るように支援している。 | | |
| 45 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が利用者の服薬内容、病歴を確認出来るようにファイルしている。処方内容が変更になった時には、申し送り日誌により確認できるようになっている。 | | |
| 46 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | できる事を手伝ってもらいながら、役割を持って過ごして頂くように努めている。 | | |
| 47 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常的には外出できていないが、地域の行事に参加したり、年間の行事計画を立て外出の機会を設けている。 | 月1回、ドライブを計画しています。 地域の行事には、積極的に参加しています。 外出の希望がある時は、散歩等対応できる支援を考え行っています。 | |
| 48 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の依頼により、施設側で管理しているが、本人、家族の希望で小額を所持している方もいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望により家族へ電話したり、家族からの電話の取り次ぎをしたり、いつでも気軽にできるよう支援している。 | | |
| 50 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム内に花を飾ったり、利用者手作りの作品を壁に貼って季節を感じられるようにしている。掃除や換気を行い、気持ち良く過ごして頂けるよう心がけている。 | 週6日は、業者が入り掃除等が行われています。毎年11月～3月の感染の注意期間等は、一日3回手すり・トイレ・洗面所等の消毒を行い感染防止に努めています。 | |
| 51 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファや椅子、テーブルを設置しており、利用者が自分の好きな場所で自由に過ごして頂いている。 | | |
| 52 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッドやタンスは事業所備え付けの物がある。その他、本人が必要とするテーブルやテレビ等を持ってきている方もいる。 | 穏やかな生活を過ごすための環境作りの一つとして、馴染みの家具の利用を働きかけています。仏様にお水を供えることができる環境作り等を行い、習慣が継続できるよう支援に努めています。 | |
| 53 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 見やすい大きな時計や暦を設置し、トイレ等にも大きな字で貼り紙をし、間違いや混乱が起きないように配慮している。 | | |